

製品名: 切断型カスパーゼ 9 p35 (D315) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08971**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ICC/IF 1:50-1:300
分子量	35 46kDa

抗原情報

遺伝子名	CASP9
別名	CASP9; MCH6; Caspase-9; CASP-9; Apoptotic protease Mch-6; Apoptotic protease-activating factor 3; APAF-3; ICE-like apoptotic protease 6; ICE-LAP6
遺伝子 ID	842.0
SwissProt ID	P55211
免疫原	抗血清はヒトカスパーゼ 9 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 266-315

背景

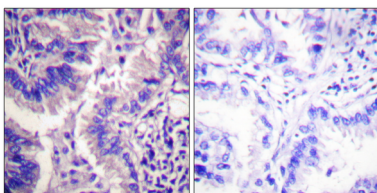
CASP9 は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーのメンバーをコードします。カスパーゼの連続的な活

性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たします。カスパーゼは不活性なプロ酵素として存在し、保存されたアスパラギン酸残基においてタンパク質分解処理を受け、大小2つのサブユニットを生成します。これらのサブユニットは二量体化して活性酵素を形成します。カスパーゼ9は、シトクロムcとアポトーシスペプチダーゼ活性化因子1からなるタンパク質複合体であるアポトーシスソームによって自己タンパク質分解処理および活性化を受けることができます。この段階は、カスパーゼ活性化カスケードにおける最も初期の段階の一つと考えられています。カスパーゼ9は、アポトーシスにおいて中心的な役割を果たし、腫瘍抑制因子であると考えられています。選択的スプライシングによって、複数の転写産物バリエーションが生じます。触媒活性: P1位にAsp残基が厳密に必要であり、P2位にHis残基が顕著に優先されます。優先切断配列はLeu-Gly-His-Asp-|-Xaaです。function:アポトーシス誘導を担うカスパーゼの活性化カスケードに関与しています。カスパーゼ9がApaf-1に結合すると、プロテアーゼが活性化され、カスパーゼ3が切断・活性化されます。また、ポリ(ADP-リボース)ポリメラーゼ(PARP)をタンパク質分解的に切断します。function:アイソフォーム2は活性を欠き、カスパーゼ9の優性阻害薬です。オンライン情報:カスパーゼ9のエントリ、PTM:グラナタイムBによるAsp-315の切断とカスパーゼ3によるAsp-330の切断により、2つの活性サブユニットが生成されます。カスパーゼ8および10もこれらの処理過程に関与している可能性がある。類似性: ペプチダーゼC14Aファミリーに属する。類似性: 1つのCARDドメインを含む。サブユニット: 35 kDa (p35) サブユニットと10 kDa (p10) サブユニットからなる、2つの逆平行に配置されたヘテロダイマーからなるヘテロテトラマー。カスパーゼ9とAPAF1は、シトクロムCとATPの存在下で、それぞれのNH2末端CED-3相同ドメインを介して相互に結合します。阻害因子BIRC2、BIRC4、BIRC5、およびBIRC7と相互作用する。組織特異性: 普遍的に存在し、心臓で最も高い発現を示し、肝臓、骨格筋、膵臓では中程度の発現を示す。その他の組織では低い発現を示す。

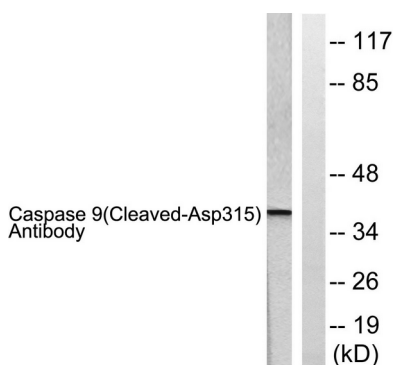
研究分野

p53、アポトーシス阻害、ミトコンドリアアポトーシス、アポトーシスの概要、VEGF、アルツハイマー病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症(ALS)、ハンチントン病、がんの経路、大腸がん、膵臓がん、子宮内膜がん、前立腺がん、小細胞肺がん、非小細胞肺がん、ウイルス性心筋炎、

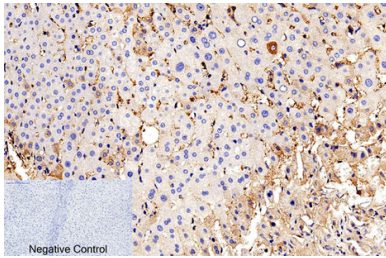
画像データ



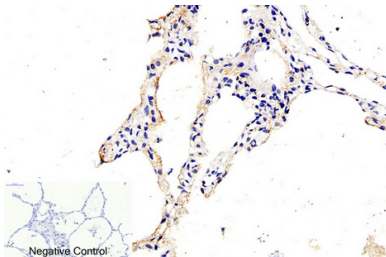
カスパーゼ9 (Cleaved-Asp315) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



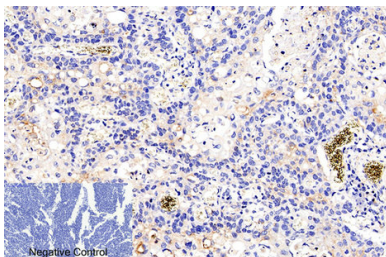
エトポシド 25 μ M 60%処理した 293 細胞ライセートの、カスパーゼ9 (Cleaved-Asp315) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングした。



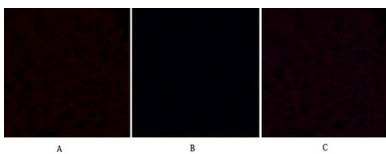
パラフィン包埋ヒト肝組織の免疫組織化学染色。1. 切断型カスパーゼ 9 p35 (D315) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



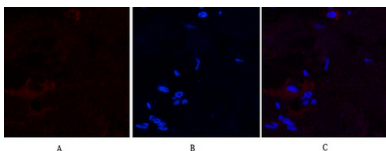
パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. 切断型カスパーゼ 9 p35 (D315) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



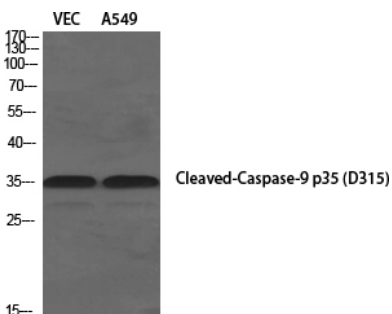
パラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。1. 切断型カスパーゼ 9 p35 (D315) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98°C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



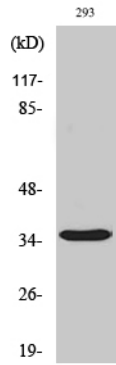
ヒト乳房組織の免疫蛍光染色。1, 切断型カスパーゼ 9 p35 (D315) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



ヒト乳房組織の免疫蛍光染色。1, 切断型カスパーゼ 9 p35 (D315) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4°C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



切断型カスパーゼ 9 p35 (D315) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた各種細胞のウェスタンブロット解析



切断型カスパーゼ9 p35 (D315) ポリクローナル抗体 (1: 1000 希釈) を用いた 293 細胞のウェスタンブロット解析